

和の記号・行列のブロック分け・トレース | 第1章 行列の概念

樋口さぶろお <https://hig3.net>

龍谷大学 先端理工学部 数理・情報科学課程

線形代数☆演習 I L10(2023-05-19 Wed)

最終更新: Time-stamp: "2023-05-19 Fri 19:28 JST hig"

今日の目標

- \sum と添字で成分の計算ができる
- 行列のトレースを計算できる
- 行列をブロック分けして計算できる



ここまで来たよ

9 行列の型と和・差・スカラー倍・積 | 1 章 行列の概念

10 和の記号・行列のブロック分け・トレース | 第 1 章 行列の概念

- 和の記号 | 2. 行列の演算
- 行列のトレース
- ◆ 行列の区分け (ブロック分け) | 2 行列の演算

行列の成分表示と \sum の演算 加藤 線形代数 pp.17,24

$A = [a_{ij}]$: 「行列 A の成分として a , 行の添字として i , 列の添字として j を使うよ」

$AB = [c_{ik}]$ 「積 AB の成分を c_{ik} と書くよ」

これを濫用 (?) して, 行列の和を $[a_{ij}] + [b_{ij}]$ と書いたりする.

$[a_{ij}] + [b_{ij}] = [a_{ij} + b_{ij}]$ 「行列の和」の成分は, 成分の和である」

$k[a_{ij}] = [ka_{ij}]$ 「行列のスカラー倍」の成分, は成分のスカラー倍

和の記号 \sum の意味を再確認

i	1	2	3	4	5
a	2	3	5	7	11
b	111	107	105	103	102

$$a_1 = 2, a_2 = 3, a_3 = 5, a_4 = 7, a_5 = 11$$

$$b_1 = 111, b_2 = 107, b_3 = 105, b_4 = 103, b_5 = 102$$

$$\sum_{i=2}^4 a_i = 3 + 5 + 7 = \sum_{j=2}^4 a_j,$$

$$\sum_{i=2}^4 2^{a_i} = 2^3 + 2^5 + 2^7,$$

$$\sum_{i=0}^2 a_{i+2} = 3 + 5 + 7,$$

$$\sum_{k=3}^5 b_k = 105 + 103 + 102,$$

$$\sum_{i=p}^q g(a_i) = g(a_p) + g(a_{p+1}) + \cdots + g(a_q).$$

mobius K1.1.30

$$\sum_{i=0}^2 b_{5-i} = 102 + 103 + 105,$$

$$\sum_{i=2}^4 a_i b_i = 3 \cdot 107 + 5 \cdot 105 + 11 \cdot 103,$$

$$i = 2, \sum_{j=2}^4 a_i b_j = 3 \cdot 107 + 3 \cdot 105 + 3 \cdot 103,$$

$$\sum_{i=2}^4 a_i b_{6-i} = 3 \cdot 103 + 5 \cdot 105 + 11 \cdot 107,$$

⋮

行列の積の復習

定義 (行列の積 加藤 線形代数 定義 2-5)

- 行列 A ($\ell \times m$ 型, 成分 a_{ij} ($1 \leq i \leq \ell, 1 \leq j \leq m$))
- 行列 B ($m' \times n$ 型, 成分 b_{ij} ($1 \leq i \leq m', 1 \leq j \leq n$))

に対して, $m = m'$ のとき (だけ), 行列 A, B の積 AB が定義され,

- 行列 $C = AB$ ($\ell \times n$ 型, 成分 c_{ij} ($1 \leq i \leq \ell, 1 \leq j \leq n$))

$$c_{ij} = \sum_{k=1}^m a_{ik} b_{kj} = a_{i1} b_{1j} + a_{i2} b_{2j} + \cdots + a_{im} b_{mj}.$$

行列の積の結合則 $((AB)C = A(BC))$ の証明

型 $\ell \times m$ $m \times n$ $n \times p$ $\ell \times n$ $\ell \times p$ $\ell \times p$
 行列 $A = [a_{ij}]$ $B = [b_{jk}]$ $C = [c_{kq}]$ $AB = [d_{ik}]$ $(AB)C = [f_{iq}]$ $A(BC) = [g_{iq}]$
 $(AB)C, A(BC)$ のすべての成分が等しければ等しい。

$$\begin{aligned}
 f_{iq} &= \sum_{k=1}^n d_{ik} c_{kq} \\
 &= \sum_{k=1}^n \left(\sum_{j=1}^m a_{ij} b_{jk} \right) c_{kq} \\
 &\stackrel{(1)}{=} \sum_{k=1}^n \left(\sum_{j=1}^m a_{ij} b_{jk} c_{kq} \right) \\
 &\stackrel{(2)}{=} \sum_{k=1}^n \sum_{j=1}^m a_{ij} b_{jk} c_{kq} \\
 &\stackrel{(2)}{=} \sum_{j=1}^m \left(\sum_{k=1}^n a_{ij} b_{jk} c_{kq} \right) \\
 &\stackrel{(1)}{=} \sum_{j=1}^m a_{ij} \left(\sum_{k=1}^n b_{jk} c_{kq} \right) = g_{iq}.
 \end{aligned}$$

$$(1) \text{ 分配法則 } (a_{11}b_{11} + a_{12}b_{21})c_{13} = a_{11}b_{11}c_{13} + a_{12}b_{21}c_{13}$$

(2) $\sum_{k=1}^n \left(\sum_{j=1}^m g(k, j) \right)$ って, 結局 $n \times m$ 個に長形状に並んだ $g(k, j)$ を全部加えろってこと.

$$\sum_{k=1}^n \left(\sum_{j=1}^m g(k, j) \right) = \sum_{j=1}^m \left(\sum_{k=1}^n g(k, j) \right)$$

順序に意味ないから, $\sum_{1 \leq j \leq m, 1 \leq k \leq n}$ みたいに書きちゃうこともある.

ここまで来たよ

- 9 行列の型と和・差・スカラー倍・積 | 1 章 行列の概念

- 10 和の記号・行列のブロック分け・トレース | 第 1 章 行列の概念
 - 和の記号 | 2. 行列の演算
 - 行列のトレース
 - ◆ 行列の区分け (ブロック分け) | 2 行列の演算

行列のトレース

定義 (トレース 加藤 線形代数 章末問題 1.6(p.39))

$A = [a_{ij}]$: n 次正方行列に対して, 次の対角成分 a_{ii} の和を **トレース (trace)** という.

$$\text{tr}(A) := \sum_{i=1}^n a_{ii}$$

$:=$ 左辺の新しい記号, 用語を右辺で定義する, という記号. \equiv , \triangleq など.

命題 (トレースの性質 加藤 線形代数 章末問題 1.6(p.39))

A, B : n 次正方行列

- ① $\text{tr}(A + B) = \text{tr}(A) + \text{tr}(B)$.
- ② c : 実数に対して, $\text{tr}(cA) = c\text{tr}(A)$.
- ③ 延期
- ④ $\text{tr}(AB) = \text{tr}(BA)$.

$\text{tr}(AB) = \text{tr}(BA)$ の証明

ここまで来たよ

- 9 行列の型と和・差・スカラー倍・積|1章 行列の概念

- 10 和の記号・行列のブロック分け・トレース | 第 1 章 行列の概念
 - 和の記号 | 2. 行列の演算
 - 行列のトレース
 - ◆行列の区分け (ブロック分け)| 2 行列の演算

対角成分以外はゼロの行列 (対角行列) の積は楽

$$\begin{bmatrix} a_{11} & 0 \\ 0 & a_{22} \end{bmatrix} \begin{bmatrix} b_{11} & 0 \\ 0 & b_{22} \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} a_{11}b_{11} & 0 \\ 0 & a_{22}b_{22} \end{bmatrix}$$

じゃあこの「ブロック対角行列」は?

$$\begin{bmatrix} a_{11} & a_{12} & 0 & 0 \\ a_{21} & a_{22} & 0 & 0 \\ 0 & 0 & a_{33} & a_{34} \\ 0 & 0 & a_{43} & a_{44} \end{bmatrix} \begin{bmatrix} b_{11} & b_{12} & 0 & 0 \\ b_{21} & b_{22} & 0 & 0 \\ 0 & 0 & b_{33} & b_{34} \\ 0 & 0 & b_{43} & b_{44} \end{bmatrix} = ?$$

実は

$$\begin{bmatrix} D & O \\ O & H \end{bmatrix} \begin{bmatrix} J & O \\ O & M \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} DJ & O \\ O & HM \end{bmatrix}$$

O は 2 次のゼロ行列, D, H, J, M は 2 次の正方行列, AJ, HM は行列の積で, その中をさらに計算する.

ブロック分け=行列を 2 階層で考える.

◆行列の区分け (ブロック分け) 加藤 線形代数 p.27

加藤 線形代数 p.27 の解説

n 行 m 列の行列 $A = [a_{ij}]$ を, 縦横に格子状に分割する. 例えば 2×2 .

$$A = \begin{bmatrix} D & F \\ G & H \end{bmatrix}$$

D, F, G, H は**行列**. 正方でなくても, 同サイズでなくてもいい. 加藤 線形代数
 では $D = A_{11}$ のように書いてあるけど, これは行列 (A の**小行列**
(submatrix)). 11 は行列につけた番号. $D = A_{11} = [d_{ab}]$.

$$AB = \begin{bmatrix} D & F \\ G & H \end{bmatrix} \begin{bmatrix} J & K \\ L & M \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} N & P \\ Q & R \end{bmatrix} = C$$

とする. ここで, B の列の分割 (J, L の境い目) は, D, F の境い目と一致している必要がある.

N, Q の境い目は D, G の境い目, N, P の境い目は J, K の境い目と一致する (行列の型のルールに似てる)

行列の積を 2 段階に分けて, ブロックごとに計算できる

$N = DJ + FL$ 行列の積っぽいルール. 行列の積と和. 順序に意味あり
 $DJ = [s_{tv}]$ とすると $s_{tu} = \sum_u d_{tu} j_{uv}$ 行列の積. 成分で書いた

証明 成分で書いてみると両辺同じ

加藤 線形代数 例 10(p.28)

加藤 線形代数 練習 7(p.29)

加藤 線形代数 練習 8(p.29)

ブロック対角のとき, ブロック分けで積を考えると楽, という例.

mobius K1.2.50

◆行列の区分け (列ベクトルへの分割) 加藤 線形代数 p.29

ブロック分けの小行列として、列ベクトルを選んだ場合の一例 3 次の正方行列 C , $A = \begin{bmatrix} \mathbf{x}_1 & \mathbf{x}_2 & \mathbf{x}_3 \end{bmatrix}$ (注: この 1,2,3 は成分でなく, 1,2,3 番目のベクトルという意味), 縦ベクトル $\mathbf{k} = \begin{bmatrix} k_1 \\ k_2 \\ k_3 \end{bmatrix}$ (この 1,2,3 は成分の番号)

$$\text{加藤 線形代数 p.29} \quad A\mathbf{v} = \begin{bmatrix} \mathbf{x}_1 & \mathbf{x}_2 & \mathbf{x}_3 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} v_1 \\ v_2 \\ v_3 \end{bmatrix} = [v_1\mathbf{x}_1 \ v_2\mathbf{x}_2 \ v_3\mathbf{x}_3].$$

$$\text{また,} \quad CA = C[\mathbf{x}_1 \ \mathbf{x}_2 \ \mathbf{x}_3] = [C\mathbf{x}_1 \ C\mathbf{x}_2 \ C\mathbf{x}_3].$$

ブロック分けの小行列として、行ベクトルを選んだ場合の一例 3 次の正方行列 B を 3 つの行ベクトル $\mathbf{y}_1, \mathbf{y}_2, \mathbf{y}_3$ に分割して $B = \begin{bmatrix} \mathbf{y}_1 \\ \mathbf{y}_2 \\ \mathbf{y}_3 \end{bmatrix}$ と書くと,

$$D = BA = \begin{bmatrix} \mathbf{y}_1\mathbf{x}_1 & \mathbf{y}_1\mathbf{x}_2 & \mathbf{y}_1\mathbf{x}_3 \\ \mathbf{y}_2\mathbf{x}_1 & \mathbf{y}_2\mathbf{x}_2 & \mathbf{y}_2\mathbf{x}_3 \\ \mathbf{y}_3\mathbf{x}_1 & \mathbf{y}_3\mathbf{x}_2 & \mathbf{y}_3\mathbf{x}_3 \end{bmatrix}.$$

すなわち, $D = [d_{ij}]$ とすると, $d_{ij} = \mathbf{y}_i\mathbf{x}_j$.

mobius K1.2.50

◆上三角行列, 下三角行列, 対角行列 | 3. 行列の種々の概念

定義 (上三角行列, 下三角行列, 対角行列) 加藤 線形代数 p.37

$A = [a_{ij}]$: n 次正方行列に対して (\leftarrow 成分は a で書くという意味)

- A が上三角行列 (upper triangular matrix) $\Leftrightarrow (i > j \Rightarrow a_{ij} = 0)$
- A が下三角行列 (lower triangular matrix) $\Leftrightarrow (i < j \Rightarrow a_{ij} = 0)$
- A が対角行列 (diagonal matrix) $\Leftrightarrow (i \neq j \Rightarrow a_{ij} = 0)$

$P \Leftrightarrow Q$: P と Q は同値, Q は P の必要十分条件, P を Q で定義する.

$P \Rightarrow Q$: P ならば Q , P は Q の十分条件, Q は P の必要条件, P : 仮定,

Q : 結論

$P \Leftrightarrow Q$ の真偽表

$P \backslash Q$	真	偽
真	真	偽
偽	偽	真

$P \Rightarrow Q$ の真偽表

$P \backslash Q$	真	偽
真	真	偽
偽	真	真

オンライン (オンデマンド) 授業 L11(2023-05-24 水 1)

授業内容の特性から、また、今後必要になるかもしれないオンライン授業の練習として、2023-05-24 水 1 の授業は、龍大標準方式のオンライン (オンデマンド) で行います。

日時 2023-05-22 月 123 火 1 公開. 2023-05-26 金 09:15 までに動画を視聴して課題 (mobius) を提出してください. 水 1 には限定されません.

場所 オンライン (オンデマンド) は、大学 (発話は必要ないので、図書館やスチューデントコモンズや、空き教室) で参加しても自宅で参加してもかまいません.

方法 manaba のコースニュースを見て、manaba のコンテンツで学習を進めてください.

準備 manaba の線形代数コースのコンテンツに「参加方法」を載せています. 事前に学習方法の練習をしておいてください.

- ① 2023-05-24 水の Trial L10 はオンライン、2023-05-26 金の Trial L11 は紙 (ふだん通り).